

第 27 回環境自治体会議全国大会の計画内容

2019.5.9 時点

(1) 開催概要

名称 第 27 回環境自治体会議 全国大会 2019 東京会議 in 足立
 日程 2019 年 5 月 20 日、21 日の 2 日間
 会場 東京電機大学（東京都足立区千住旭町 5 番）
 内容 環境自治体会議総会、全体会（パネルディスカッション、総括セッション）、
 分科会（3 テーマ）、一般発表、企画セッション、交流会
 主催 環境自治体会議
 協力 東京都足立区、東京電機大学

(2) スケジュール

	開始	終了	プログラム	参加対象	会場
1 日 目	13:00	13:30	首長昼食会	会員首長	100 周年ホール
	13:30	14:30	環境自治体会議総会	会員首長、職員	
	14:00		受付開始	一般参加者	
	15:00	15:30	開会式	全参加者	丹羽ホール
	15:45	17:15	パネルディスカッション		
	17:15	17:30	論点提起		
	18:00	20:00	交流会	全参加者	100 周年ホール
2 日 目	9:00	9:30	受付	2 日目のみ参加者	
	9:30	13:00	分科会（3 テーマ）		5 号館 5203～05 セミナー室
	13:00	14:00	昼食（各自）		
	14:00	15:10	一般発表		5 号館 5203～04 セミナー室
	15:20	16:45	総括セッション		100 周年ホール
	16:45	17:00	閉会式		
	17:00		終了		

(3) 参加費等（一人当たり）

大会参加費（交流会は別途）

- A. 環境自治体会議 会員自治体・個人会員 ……10,000 円
- B. その他一般 ……15,000 円
- C. 足立区民 ……20 日全体会のみ無料（先着 100 名）

交流会参加費（全種別） ……5,000 円

企画セッション開催費（参加費 5 名分、資料掲載 10 ページ含む） ……10 万円

一般発表料（参加費 1 名分、資料掲載 1 ページ含む） ……2 万円

(4) セッション概要

メインテーマ「手をつなぎ、持続可能な地域づくりを次のステージへ

—SDGs 達成に向けて地域からできること—

①首長パネルディスカッション

「自治体間連携で実現する地域からの SDGs 達成」

自治体間の横並び・競争を続けるには限界があります。これからは各地域の強みを活かした戦略的な連携により、環境政策・持続可能な地域づくりの取り組みを切り拓くステージに入っていくのではないのでしょうか。先駆的な試みに学びながら、新しい自治体間連携のあり方、可能性と課題を考えます。

コーディネーター	田中充（法政大学教授、環境自治体会議アドバイザー）
パネリスト	佐藤雅一（新潟県魚沼市長） 足立区とのカーボンオフセット事業
	境公雄（福岡県大木町長） みやま市との持続可能な循環型社会の構築に係る包括協定
	保坂展人（東京都世田谷区長）複数自治体と連携した再エネ普及拡大
	中井徳太郎（環境省総合政策統括官）地域循環共生圏の実現と SDGs

②分科会

第1分科会【SDGs】

「やらなきゃならない？どう取り組む？地域発 SDGs」

2015年に国連で採択されたSDGs…国内でも耳にする機会が増えてきました。しかし地域政策との関係に悩んでいる方も多いのでは？地域づくりの中核にSDGsを据えて取り組みだした自治体や、企業と連携しながら地域課題へのアプローチに活用している自治体などの事例を学び、地域でSDGsに取り組む意義やその方法を考えます。

コーディネーター	蟹江憲史（慶應義塾大学教授）
パネリスト	片山健也（北海道ニセコ町長） SDGs 未来都市に選定。未来都市計画の構想、SDGs の考え方を地域にどう浸透させていくのか。
	牧野百男（福井県鯖江市長） 独自に地域版 SDGs への取組に着手。どのような手法で地域 SDGs の取組を実践していくのか。どのような効果が見えつつあるか。
	佐藤暢久（静岡県静岡市企画課地方創生推進担当課長） 民間企業等と連携した SDGs への取組、SDGs ハブ都市としての役割と活動について。
	金丸治子（イオン株式会社環境・社会貢献・PR・IR担当付担当部長） 企業活動の中でSDGsに取り組みつつ、自治体を支援している事例。

第2分科会【気候変動適応・防災】

「今こそ本気で考える、気候変動への適応と防災」

毎年のように大規模災害が発生する現実からは、気候変動の影響を意識せざるを得ません。昨年6月には気候変動適応法が公布され、自治体には地域適応計画の策定が求められています。迫りくる気候変動の危機をどう捉え、どのように計画に落とし込むべきか、市民と共に日常で取り組めることは何かなどを掘り下げます。

コーディネーター	白井信雄（山陽学園大学教授）
パネリスト	嶋田知英（埼玉県環境科学国際センター 研究企画室長） 気候変動の影響予測、予測データを活用した政策立案の手法と留意点について。
	野口正明（NPO 法人ふじの里山くらぶ 理事） 相模原市藤野地区における、地域住民が主体となって気候変動適応策の検討を実施した「気候変動の藤野学」について。
	熊谷青年会議所 商工業者を中心とするまちなかクールシェアの取り組み。日常における防災を意識した、暑熱対策と商業活性化を両立する試みについて。
	池上三喜子（市民防災研究所） 市民の自助・共助による地域の防災力を高めるために必要なこと。（特に豪雨・水害への備えについて）
情報提供	川口弘（足立区環境部長） 足立区地域防災計画の概要、計画作成の視点について。

第3分科会【ストックマネジメント】

「公共施設・インフラの低炭素化、適正管理の戦略」

大部分の地域が減少人口の時代を迎え、公共施設やインフラを適正に管理することが喫緊の課題になっています。単なる統廃合ではなく、環境に配慮しつつ長く愛される施設管理のあり方とは？生活インフラの老朽化にどう備え対応していくか？など、環境行政から発信できることを踏まえて考えます。環境に配慮した東京電機大学 東京千住キャンパスのショートツアーも行います。

コーディネーター	村上公哉（芝浦工業大学教授）
パネリスト	青木大（中野区地球温暖化対策分野） 環境省カーボンマネジメント強化事業を活用した ESCO 事業の取り組み手法とその成果。
	神谷淳一（武蔵野クリーンセンター） 焼却施設を中心とした周辺公共施設の低炭素化、市街地に位置する焼却施設としての環境配慮のあり方。
	伊藤雄二（公益財団法人日本下水道新技術機構） 下水道ストックの老朽化予測情報をもとにした計画手法、管理計画の策定と運用に取り組む事例について。
現場説明	百田真史（東京電機大学教授）

③一般発表

持続可能な地域づくりに関する研究成果や取り組み事例に関する単発（20分程度）の発表。

A会場 【行政全般】

- 14:00～14:20 増原 直樹 氏（総合地球環境学研究所研究部 上級研究員）
「SDGs 未来都市とローカライズ指標の最新動向」
- 14:25～14:45 倉阪 秀史 氏（千葉大学大学院社会科学研究院 教授）
「ストック（資本基盤）の豊かさを倍増するための知恵ー永続地帯・未来カルテ・ストックマネジメント研究からー」
- 14:50～15:10 竹内 孝曜 氏（グリーン購入ネットワーク（GPN）事務局）
「地方公共団体のグリーン購入取り組みランキング」

B会場 【気候変動・エネルギー】

- 14:00～14:20 羽田 康浩 氏（郡山市生活環境部次長兼環境政策課長）
「地球にやさしい、持続可能なこおりやまの実現のために～連携による地球温暖化対策への取り組み～」
- 14:25～14:45 百田 真史 氏（東京電機大学未来科学部建築学科 教授）
「環境保全・安全管理に配慮した都市型キャンパスについて」
- 14:50～15:10 杉山 範子 氏（名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター）
「持続可能でレジリエントな地域づくりを目指す「世界気候エネルギー首長誓約」」

④総括セッション

首長パネル、各分科会の議論を振り返り、2日間の会議の成果を確認・共有します。

コーディネーター：中口毅博（環境自治体会議環境政策研究所 所長／芝浦工業大学教授）

パネリスト：蟹江憲史（慶應義塾大学教授／第1分科会）

白井信雄（山陽学園大学教授／第2分科会）

村上公哉（芝浦工業大学教授／第3分科会）

鈴木秀生（外務省地球規模課題審議官）